

1

今年度の結果と取り組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くことに関しては、概ね良好な結果であった。
- ② 書くこと に関しては、概ね良好な結果であった。
- ③ 読むこと に関しては、概ね良好な結果であった。
- ④ 言語事項 に関しては、良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式 に関しては概ね良好な結果であった。
 - ② 短答式 に関しては良好な結果であった。
- (無解答率) についても 概ね良好な結果であった。

(その他)

全国の正答率に比べ、正答率が著しく高かった設問は、
1ー(3) (漢字を読む) 1ー二(2) 1ー二(3) (漢字を書く)
である。
全国平均より正答率の低かった設問は、
3(聞き方の説明として適切なものを選択する)
6(登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する)
もっとも無回答率の高かった設問は、1ー二(1) (漢字を書く) <シャワーをあびる>であった。

国語B

(領域ごと)

- ① 書くことに関しては 良好な結果であった。
- ② 読むこと に関しては 良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式 に関しては概ね良好な結果であった
 - ② 短答式 に関しては概ね良好な結果であった
 - ③ 記述式 に関しては良好な結果であった。
- (無解答率) についても概ね良好な結果であった。

(その他)

全国の正答率より正答率が著しく高かった設問は、
1ー(1)新聞の割り付けとして適切なものを選択する。
2ーイ適切な内容を書き抜く。
2ー二文書の要旨をまとめて書く。
2ー三楽器の分担図を基にして書く。
全国平均より低かった設問は
1ー二見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する。

もっとも無回答率の高かった設問は、
3ー<絵3>の場面が始まるままとりとして適切なものを選択する。

分析

国語ABの基礎的な知識及び活用力の問題では、概ね良好な結果であった。活用力の問題は、基礎的な問題に比べると正答率がやや低くなっている。個々の問題では、漢字を読むこと、書くことなどの知識の問題では、正答率も高く、良好な結果であった。しかし、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえることや条件に合わせて自分の考えを書く問題では、正答率も低く課題があった。伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項は良く身に付けていると考えられ、今後も引き続きこの力は大切に育てていきたいと思う。また、問題文についてもかなりの確に読み取っているが、少し角度を変えた設問になると応用が効きにくいようである。今後は様々な角度からの設問に慣れると共に、読み取ったものを一旦自分の中に取り込み、自分の考えを文章化する力、しかも条件に合わせて文章化する力を養っていく必要がある。授業の中で自分の考えを様々な条件のもとに書いていくという学習活動を取り入れていかなければならないと考える。また、話し合い活動におけるまとめ方も、いろいろなパターンのもに慣れる必要がある。

○●算数・数学●○

算数・数学A

(領域ごと)

① 数と計算に関しては概ね良好な結果であった

②量と測定に関しては良好な結果であった

③図形に関しては良好な結果であった

④数量関係に関しては概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式に関しては概ね良好な結果であった

②短答式に関しては良好な結果であった

(無解答率) についても 概ね良好な結果であった

(その他)

正答率が全国よりも高かった設問は、

1-(2)「 $5.21 + 0.7$ は 0.01 が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く。」

4-(2)「分度器の目盛りを読み、 180° より大きい角の大きさを求める。」

5-(2)「円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の角の大きさをもとめる。」

一方、正答率が全国よりも低かった設問は、

2-(1) $28 + 72$ 「繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる。」

2-(43) $5 \div 6 \div 7$ 「除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる。」

無回答率については、全国同様、全般的に低い。

算数・数学B

(領域ごと)

① 数と計算に関しては良好な結果であった。

②量と測定に関しては 良好な結果であった

③図形に関しては 良好な結果であった

④数量関係に関しては良好な結果であった

(問題形式)

①選択式 に関しては概ね良好な結果であった

② 短答式に関しては 良好な結果であった

③ 記述式に関しては 大変良好な結果であった

(無解答率) についても 概ね良好な結果であった。

(その他)

正答率が全国よりも高かった設問は、

2-3「示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを見出し、正しい求め方と答えを書く。」

3-2「合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、角が 30° になるわけを書く。」

4-3「目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く。」

5-2「示された図形の色がついた部分の面積を求める」

一方、正答率が全国よりも低かった設問は、

1(1)「平行四辺形を構成することができる。四つの辺の組み合わせを選ぶ。」

1(2)「作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ。」

無回答率が高かった問題は、

3(2)・5(1)「示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く。」

分析

A 問題においては、良好な結果が多く、算数の基礎が定着していると考えられる。ただ、円の性質や展開図などが、全国でも本校でも他の設問に比べ正答率が低く、図形にしっかり慣れ親しむことが大切と思われる。B問題においては、良好な結果また大変良好な結果であった。無回答率も低く、長い設問に対してもあきらめずに取り組んでいこうとする姿勢が見られる。ここ数年、校内において問題解決型の学習形態取り組んできた成果であると考えられる。ただ、B問題でも平行四辺形の設問につまずく児童もいて、A問題B問題を通して、図形に関していろいろな角度からアプローチする必要があると感じられる。

本校も全国も正答率が低い問題に、言葉や式で理由を説明するというものがある。授業展開の中で、自分の言葉や式で説明する場面をまだまだ増やしていく必要があると考えられる。また、一つ一つの問題自体の難易度はあまり高くないが、日常生活に結びつけた問題だったり、少し角度を変えて尋ねられたりすると、できなくなってしまう傾向がある。今後もバラエティー豊かな問題に触れさせていく必要があると考える。

質問用紙の回答では、「算数が好き」「算数は役に立つ」などの質問に対しても、「はい」と答えている児童が多く、算数授業についての質問に対しても前向きな回答が多く、算数に対する意欲が感じられる。その児童の気持ちを大切にしながら、しっかりとした算数の能力をつけられるよう今後も授業の工夫をしていきたい。

理科

(領域ごと)

- ① 「物質」については、概ね良好な結果であった。
- ②「エネルギー」については、概ね良好な結果であった。
- ③「生命」については、良好な結果であった。
- ④「地球」については、概ね良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式については、概ね良好な結果であった。
- ② 短答式については、概ね良好な結果であった。
- ③ 記述式については、概ね良好な結果であった。

無回答率についても概ね良好な結果であった。

(その他)

正答率が全国より高かった設問は、
メダカのめすとおすをみわけけるための観察する部分を選ぶ設問、
観察した星座や雲の動きを選ぶ設問、
生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点
を選ぶ設問、
顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ設問
である。

一方、正答率が全国より低かった設問は、
水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が示す温度が
高く成る順番を選ぶ設問

水の温まり方について、実験結果から考えなおした内容を選ぶ
設問

メスシリンダーで一定量の水をはかりとる適切な扱い方を選ぶ
設問

夕方に見られる月の形と場所を選ぶ設問である。

分析

主として「知識」に関する問題では概ね良好な結果であったが、「活用」に関する問題ではやや課題が残る結果であった。

自然現象についての知識・理解や観察・実験の技能は概ね良好な結果であった。

領域のなかでは、生命がもっとも良好な結果であった。本校の周りは自然環境にも恵まれ、学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活に当てはめて考える活動も充実できていて機会にも恵まれていることも一つの理由と考えられる。

物質・エネルギーの領域の設問では他の領域に比べて正答率が低かった。メスシリンダーで一定量の水をはかりとる操作技能に関する知識の定着に課題があった。器具の操作の意味を捉え、適切な扱い方を理解する指導の充実をはかる必要がある。また、実験を構想したり、実験結果を基に自分の考えを改善したりすることに課題があった。考察したことや判断した理由を説明する際には、観察、実験の結果を基に事実と解釈の両方を示す必要があることを理解することが重要である。事実と解釈したことを示して判断の根拠や理由を説明する指導の充実をはかることが大切であると考ええる。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

調査の始まった平成19年から平成27年まで、国語・算数・A・Bともに、上昇傾向がみられ、概ね良好な状況を維持している。無回答率も年々減少している。

学力高位層と学力低位層についての分析

学力低位層については、平成19年度から平成27年度まで、連続して低下傾向である。高位層については上昇傾向がみられ、概ね良好な状態を維持している。

〇●取り組み●〇

学力向上に関する取り組み

授業づくりについて

- ・「自ら考え みんなで交流しあう授業づくり」のテーマにそって各学年が研究授業に取り組み、授業力の向上を図る。
- ・授業の中で、交流を通し児童どうしのつながり力の向上を図る。
- ・問題解決学習の推進。
- ・授業の視覚化、構造化、協働化の定着
- ・効果的なICT機器の活用、支援サポーターとの連携、
- ・習熟度別指導や個別指導など個に応じたきめ細かな指導
- ・山手台スタンダード、100点筆箱、学習のルール の定着
- ・校内研修会の実施

基礎的な学力育成を

- ・朝学習の充実・・・なかよし学びタイム・ぐんぐんタイム
- ・専門支援員と連携し、学力の向上を図る。
- ・朝の読書の実施、図書館支援員との連携により、読み聞かせなどにより意欲的に読書に取り組めるようにする。

家庭との連携

- ・学習・生活アップ週間、家庭学習の手引き
- ・家庭学習、自主学習の定着を図る。

小中連携の強化

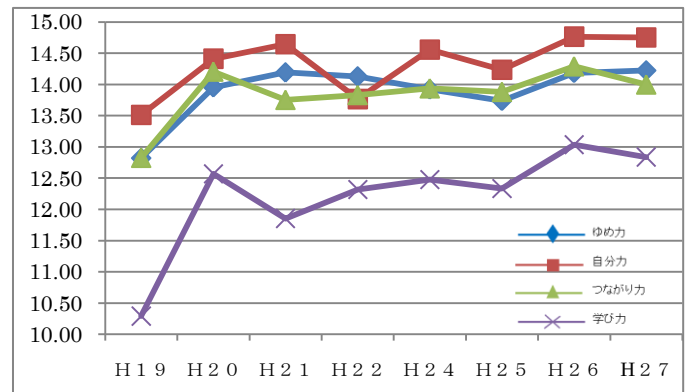
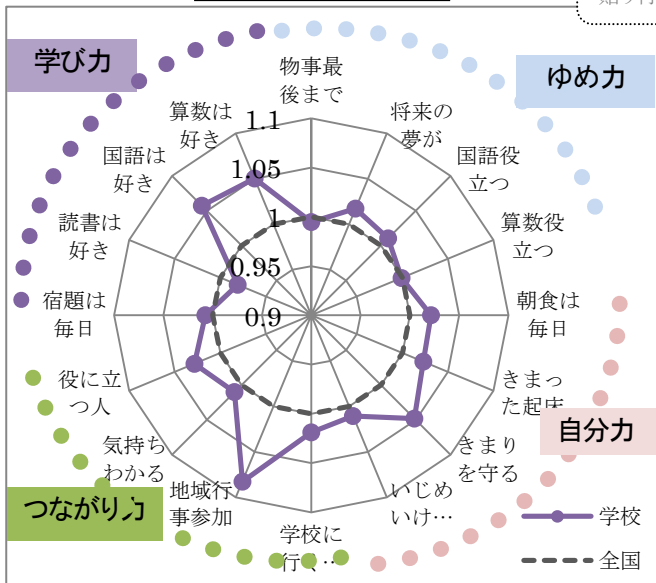
- ・小中合同研修
- ・北陵中学校校区の研究授業の実施
- ・交流会の実施

○●子どもたちに育みたい力●○

今年度の結果

基礎資料⑦から
貼り付ける

これまでの推移



分析

どの力も、概ね全国よりも高いが、「ゆめ力」が他の力に比べやや低い傾向がみられる。本年度は、読書が好きと考えている児童の割合が低くなっている。また、算数・国語は好きだと考えている児童が多いが、国語・算数が役に立つと考える児童の割合は低くなっている。

「つながり力」については、今年度地域行事にも参加する児童の割合が高くなり、今後も地域行事への参加するなかで地域とのつながりも深めていってほしいと考える。

今年度は、ややつながり力・学び力が下がっているので、学習・行事のなかで意欲・関心を工夫うが必要である。

取り組み

ゆめ力

学年に応じたキャリア教育の推進・二分の一成人式の実施
ゲストティーチャとの出会いを通して、仕事や生き方を学ぶ。

自分力

規範意識を身につける。人を思いやる気持ち、人権感覚を身につける。
学習・生活アップ週間の実施。

つながり力・

朝学習(なかよし学びタイム)
育む会(青健協)との連携。親子映画会・耐寒ハイキングの実施、地域の人たちとの交流
公民館との連携。地区運動会への参加 国際理解教育(アメリカの小学校との文通)

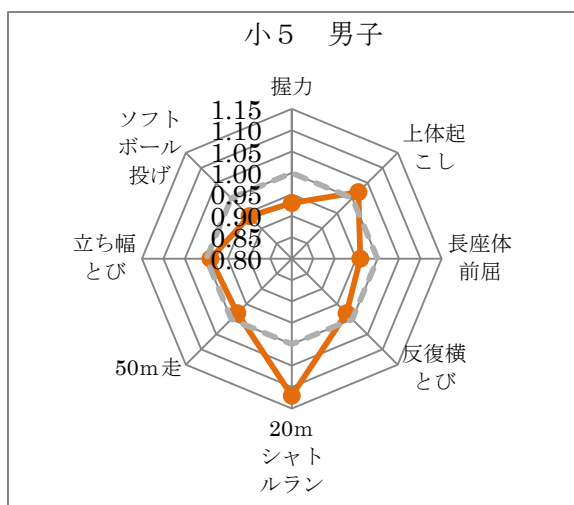
学び力

朝の学習(基礎・基本の定着)
自分で課題を設定し、自主的に学習する力をつける。

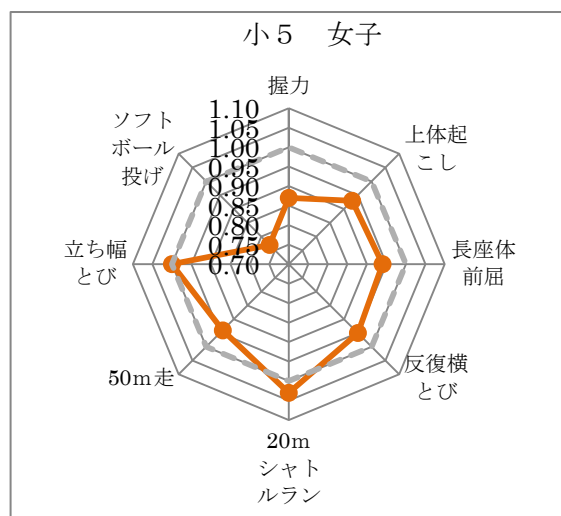
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5 中2)



女子 (小5 中2)



分析

男女ともにソフトボール投げと握力が低い。(特に女子が低い)

20mシャトルランは男女ともに全国平均より高く、全身持久力に優れている。

どの種目においても女子の体力が低いのが課題である。

男女ともに、筋力やボールを投げるといった能力に課題が見られる。

取り組み

スポーツテスト全学年実施
及び検証

体育職員研修の実施
・陸上運動
・器械運動

なわとび週間
ドッジボール週間

茨木っ子運動Ⅱの全学年実施

2 3年間の計画

	(各校)		(ブロック共通)
	学力向上	体力向上	中学校ブロック連携
目標	自ら考え、学び合う学習を通して確かな学力の定着を図る	自分の体力の状況を知り、運動に親しみ、体力を伸ばす	思いやりをもち、助け合う子どもたちを育てる
平成26年度	研究授業 教科(算数)・人権 研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習 家庭学習の手引きの検討 あゆみ 評価項目の検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(保護者)の実施	スポーツテスト全学年実施 及び検証 体育職員研修の実施 ・ボール運動 ・水泳指導 なわとび週間 ドッジボール週間	◎中学校区での合同研修会 (生徒指導研修会) 8月19日(火) 午後1時30分～4時30分 ・生徒指導研修会后、教科毎 のグループに分かれ討議 ① 小中の違いと連携して いくべきことの確認 ② 今後(2, 3年目)に向 けてどうするかの話合 い ◎同じ中学校区の学校の研 究授業の紹介と参加
平成27年度	研究授業 教科・人権 研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習 家庭学習の手引きの検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(児童)の実施	スポーツテスト全学年実施 及び検証 体育職員研修の実施 ・陸上運動 ・器械運動 なわとび週間	◎同じ中学校区の学校の研 究授業の紹介と参加 ○連携する内容別の分科会 の開催(教科、支援、行事、 情報モラル、授業規律等) ○授業内容の交流 ○9年間を見通したカリキ ュラムの検討・作成
平成28年度	研究授業 教科・人権 研修会の実施 山手台プランの実施及び検証 朝学習 家庭学習の手引きの検討 学習・生活アップ週間の実施 学校自己診断(教師)の実施 ジャンプアップ計画の検証	スポーツテスト全学年実施 及び検証 体育職員研修の実施 ・表現運動 ・体づくり運動 なわとび週間	◎同じ中学校区の学校で1 回ずつ合同授業を実施 ○小中での連携事項を意識 した授業づくり ○9年間の連携カリキュラ ムの検討・作成